

# 執筆要領

## 1. 原稿の校正

### 1.1 論説，論文について

- 1) 表題と投稿者名は和・英文とする。ただし，投稿者名のローマ字書きは，姓は大文字とし，名は第2字以下を小文字とする。
- 2) 投稿者名に続いて投稿者の属する機関名ならびにその英訳を書く。また，著者の希望によりE-mailアドレスを記載する。
- 3) 和文原稿の場合には，800words以内のAbstractを付ける。英文原稿の場合は500字以内の和文要旨を付ける。
- 4) 和・英文のキーワード（4語程度）を付ける。キーワードはAbstract（要旨）の次に記入する。

### 1.2 その他の原稿について

和文または英文の本文と投稿者名，所属機関名で構成される。

## 2. 文章と文体

- 1) 文体は口語常態（である体），現代かなづかいを用いる。漢字は原則として当用漢字を使用する。ただし，固有名詞や学会で広く用いられている慣用の語はこの限りではない。また，本文中の人名には敬称を付けない。
- 2) 句読点は（ ． ）（ ， ）を用いる。
- 3) 本文中に外国語を挟むことはできるだけ避ける。ただし，生物の学名，適当な訳語がない述語，固有名詞などはこの限りではない。
- 4) 数字はアラビア数字を用い，数式には2行を用いる。文中に数式を挿入するときは， $Y = a/b$ ， $\exp(-t/X)$ のように印刷に便利な書式とする。
- 5) 単位は原則としてSI単位系による。
- 6) 次の事項は投稿者が指定するものとする。
  - ) 数式，生物の学名等に対するイタリック字体の指定：赤の下線
  - ) ふと字体（ゴシック字体，ボールド字体）の指定：赤で波形の下線
- 7) 誤りやすい文字はとくに注意して書くこと。とりわけ数式における添字（上付き，下付き），ローマ字 *c*，*v*，*w*，*z* などの大文字と小文字，ギリシャ文字等は明瞭に識別できるように書き，できればその文字の上に， $\bar{\quad}$ ， $\underline{\quad}$ ， $\overset{\circ}{\quad}$ ，大，小， $\bar{\quad}$ 等と赤で指定すること。

## 3. 原稿の書き方

- 1) 原稿は，1行の文字数を26文字（英文原稿の場合46words）としてワードプロセッサを用いて仕上げる。参考までに，1頁はA4版で26×47行×2段=2,444字である。
- 2) 章は2. 節は2.1のようにゴシック体で書く。項目を列挙する場合は1)，2)，・・・のように書く。
- 3) 数式は，手書きでも良い。ただし，わかりやすく活字体で書く。
- 4) 原稿の右側余白部に図，表および写真を入れる位置を指定すること。
  - 図，表および写真は，図 - ，表 - ，写真 - のように書く。

## 4. 引用文献

引用した文献は引用順に番号を付け，以下に示す例に従って一括本文末にまとめて記載する。本文中には引用箇所につつき数字で1)，2)，・・・として記入する。また，ローマ字書きの人名の姓はすべて大文字とする。なお，出展名の表記はできるだけ省略しないことを原則とする。

（例）

### 引用文献

- 1) 三浦 清（1973）：深成岩類の風化に関する研究（第1報），応用地質，Vol.14，No.3，pp.1-6.
- 2) 都城秋穂（1965）：変成岩と変成帯，岩波書店，pp.58-87。（単行本の一部の引用の例）
- 3) 湊 正雄・小池 清（1985）：新版地質調査法，古今書院，p.161。（単行からの引用の例）

- 4) DROSTE, J.B (1956) : Alteration of clay minerals by weathering in Wisconsin Tills, *Bull. Geol. Soc. Amer.*, Vol.67, pp. 911-918.
- 5) CARROLL, D. (1970) : Rock weathering, Plenum Press, New York, pp.81 - 115. (単行本の一部引用の例)
- 6) HARRIS, R.C. and ADAMS, J.A.S (1966) : Geochemical and mineralogical studies on the weatering of granitic rocks, *Ameri. Jour. Sci.*, Vol.264, pp.146 - 173.
- 7) TSUKAHARA, H. and IKEDA, R (1987) : Hydraulic fracturing stress measurements and insitu stress field in Kanto-Tokaiarea, Japan, *Tectonophysics*, Vol.135, pp.329 - 345.
- 8) ENGELDER, T.(1987) : Joints and Shear fractures in roak, In *Fracture Mechanics of Rock* (ed., B.K.Atkinson), Academic Press, London, pp.27 - 69. (編集者付き単行本の一部引用の例)
- 9) メイスン, B. (1970) : 一般地球化学, 松井義人・一国雅巳訳, 岩波書店, pp.184 - 231. (翻訳本の一部引用の例) (本文中での引用例)

(本文中での引用例)

三浦<sup>1)</sup>は.....と述べている. CARROLL<sup>4)</sup>によれば.....とされている<sup>2),7)</sup>.

## 5. 図・表・写真

- 1) 図, 表等は整理されたものとし, 生のデータのみを多数載せることは避けること.
- 2) 図, 表等は1枚ごとに別の用紙に書き, 小さいものは原稿用紙大の紙に貼る. 原図の大きさは原則としてA31ページ大(297×420mm)を越えないものとする.
- 3) 図, 表はそのまま(原寸または縮小して)製版するので, トレーシングペーパー等に墨入れまたは, パーソナルコンピューター等で作成して仕上げる. 文字, 数字, 記号等は縮図を参考にして適当な大きさに書くこと.
- 4) 校正時の図, 写真の訂正, 修正は認めない.
- 5) 図, 表等の原稿には右上欄外に図表番号, 標題を付けること.
- 6) 図, 表等の標題, 解説文等は文末に一括して記入すること.
- 7) 図(とくに地形図, 地質図等)の内容の大きさを示す場合には, 何分の1という表現は避け, 必ずスケールを入れること.
- 8) 写真原稿は, カラー写真をモノクロとして印刷すると不鮮明になるので, 白黒写真を用意することが望ましい.
- 9) 写真中に直接文字を入れる場合には, 写真に直接タイプ文字を張り込むこと.

## 6. 英文原稿

- 1) 英文原稿は語学的に難点のないことが必要であり, 投稿者の責任において完全を期する.
- 2) 文中でローマ字書きした日本の地名, 地層名等は文末にアルファベット順に表示し, その原名(漢字)を示すこと, ただし, 一般に周知のものは省略してよい.
- 3) 英文原稿には, 英文要旨のほかに日本語による要旨を添える.
- 4) 上に規定したほかは, 和文原稿の規定に従うこと.

## 7. 校正

- 1) 著者校正は, 原則として初校で1回行う.
- 2) 著者校正の際は大幅な変更は認めない.
- 3) 著者校正の期間は原則として1週間以内とする.
- 4) 再校以降は原則として編集事務局が行う.